



共立

パックテスト®

使用法

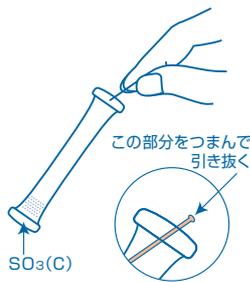
亜硫酸(高濃度)

型式 WAK-SO₃(C)よう素比色法による
Iodine Visual Colorimetric Method

主試薬 よう素酸

測定範囲 SO₃²⁻ 50~2000 mg/L(ppm)

測り方



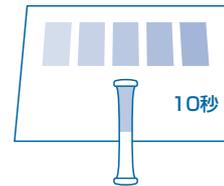
① チューブ先端のラインを引き抜きます。



② 穴を上にして、指でチューブの下半分を強くつまみ、中の空気を押し出します。



③ そのまま穴を検水の中に入れ、つまんだ指をゆるめ、半分くらい水を吸い込むまで待ちます。液がもれないようにかるく5~6回振り混ぜます。



④ 10秒後にチューブを標準色の上ののせて比色します。

測定値の読み方

指定時間後にチューブ内の液の色を標準色と比べます。一番近い標準色の値が測定値です。チューブ内の液の色が標準色の間の場合は中間値を読み取ってください。

パックテスト使用前、使用後の取扱い注意

チューブの内容物は**強酸性**です。

応急措置

内容物が目に入ってしまったら → すぐに15分以上、水で洗い流してください。痛みや異常がなくても直後に必ず眼科医の診断を受けてください。

内容物が皮膚や衣服にふれたら → すぐに水で洗い流してください。

内容物が口に入ってしまったら → すぐに水で口の中を洗い流してください。

内容物を飲み込んだり、上記の措置後に異常がある場合には、すぐに医師の診断を受けてください。試薬の有害性は外箱の「GHSに基づく表示」、SDSをご参照ください。

保管

ラミネート包装を開封した後は、なるべく早くご使用ください。

廃棄

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄してください。

それ以外の場合は、チューブはそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨しています。



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク
TEL: 045-482-6937

パックテスト 亜硫酸(高濃度)

特徴

この製品は、検水中の亜硫酸イオン(SO_3^{2-})を酸性下でよう素酸と反応させ、析出するよう素の黄色を標準色と比べることにより、還元処理工程などの高濃度の亜硫酸を簡単な操作で測定できます。

注意

1. 亜硫酸イオンは空気によって酸化されるので測定は試料採取後直ちに行なってください。
2. 比色は、10秒から1分の間に行なってください。1分を過ぎると、発色が黒っぽくなり、またチューブが紫色に着色してきます。
3. 発色時のpHは、2以下です。pHが9以上の検水は希硫酸等でpH7以下にしてから測定してください。
4. 測定範囲以上の検水は発泡し、危険です。高濃度が予想される場合には、必ず希釈してから測定してください。
5. 1回で検水をチューブの半分近くまで吸い込めなかった時には、穴を上にして空気を押し出し、もう一度やりなおしてください。
6. 比色する時に、多少試薬が溶解せずに残っていても測定には影響ありません。
7. 検水の温度は15~40℃で測定してください。水温が低いと発色に時間がかかります。
8. 比色は昼光で行なってください。直射日光や一部の蛍光灯、水銀灯、LEDでは比色が困難になることがあります。
9. 発色後にラインをチューブ先端の穴に戻すと、チューブ内の液がもれなくなります。

共存物質の影響

標準色は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。下記は、標準液に単一の物質を添加した場合の発色への影響データです。

1000mg/L 以下は影響しない	...	Al^{3+} 、 Ca^{2+} 、 Cl^- 、 K^+ 、 Mg^{2+} 、 Na^+ 、 NH_4^+ 、 Ni^{2+} 、 NO_3^- 、 PO_4^{3-} 、 SO_4^{2-} 、 陰イオン界面活性剤、ホルムアルデヒド	
100mg/L	//	...	Cu^{2+} 、 Zn^{2+}
20mg/L	//	...	NO_2^-
10mg/L	//	...	Fe^{2+} 、 Fe^{3+}

海水は影響しません。

検水にでんぷんを含む場合は、発色が紫色から黒色になることがあります。

還元性物質は、還元の強さにより発色を強めることがあります。

酸化性物質は、発色を弱めることがあります。